

令和6年度(2024年度)
第3回 熊本市文化芸術推進基本計画策定委員会
議 事 録

【開催日時】 令和6年(2024 年)6月 26 日(水) 10:00～12:00
【開催場所】 市役所本庁舎 4階モニター室

【出席者】

■ 委員

喜久山 悟	委員長
西島 喜義	副委員長
石櫃 仁美	委員
嘉悦 なつ美	委員
狩野 春美	委員
小堀 俊夫	委員
佐藤 勝昭	委員
浪床 敬子	委員
モーガン ジェイソン デイビット	委員
山下 裕子	委員

■ 事務局

上島文化創造部長

<文化政策課>
大石課長
岡内副課長
村上主査
櫛川主事

【会議内容】

■ 議事 熊本市文化芸術推進基本計画(骨子案)について

発言者	発言要旨
	■開会
	<議事> 熊本市文化芸術推進基本計画(骨子案)について 事務局説明
石櫃委員	邦楽コンクールが具体案に出ていないので検討してほしい。
喜久山委員	邦楽コンクールは長い歴史があり大きなイベントとのことだが、自分は知らなかった。もう少し浸透させるための戦略が必要。
小堀委員	石櫃委員に同意。こども邦楽コンクールも併せて周知してほしい。
石櫃委員	コンクールは市民会館で開催している。広報は、チラシ・熊日の記事・HPで動画配信をしている。
モーガン委員	施設に入りにくい人もいると思うので、例えば1か月前に路上で披露する等プレイベントとして広報するのはどうか。
石櫃委員	プレイベントを現代美術館や百貨店等でやっているが、頻度は多くない。露出していくことは大事だと思う。
喜久山委員	水前寺成趣園や熊本城等、歴史あるシチュエーションで開催するのはどうか。マスコミは「映え・画」を求めているはず。
佐藤委員	広報・広告に関して、経験上、プロポーザルの仕様書が縛りになって表現の幅が狭まることが多々あるため、現代に合うように内容のアップデートが必要。
西島委員	文化・歴史をつくってきたのは「人物」。横井小楠や小泉八雲や宮本武蔵等、熊本市は人物に焦点をあてて歴史を語る取組はできていない印象。そうした視点も取り入れられたらいい。
喜久山委員	松山市の夏目漱石の使い方はとても上手。まち・観光と絡めてストーリーが作られている。
浪床委員	たくさん具体案が描いてあり、全部実現できれば良いが、予算措置の問題が心配。 <めざす姿について> 「まちをキレイにしたいと思い行動する」の文言は清掃を想定しているのか。イメージが付きづらいため「魅力ある」くらいにしていかがかが。 <施策Ⅳ－3－①について> 東京藝術大学との連携とありすごいと思うが、地元の大学も入れた方がいいのでは。
喜久山委員	東京藝術大学との事業について、現実的に動いているのか。
事務局	日比野文化顧問とのつながりで、市職員向けに東京藝術大学のDOORプログラムを実施している。 この計画に盛り込めば予算が付くわけではないが、計画への記載の仕方として「こんなことをしていきたい」くらいの表現になる可能性はある。
喜久山委員	広い視野でアートマネジメントできる存在、熊本の魅力を外に発信できる存在が必要だと思う。
狩野委員	前回の策定委員会でも、つながりをつくる・マネージャー的存在が足りていないという話になった。今回の資料で、つなぐ役割は文化顧問が行うとのことだが、実際に地域の中に入って動くのは、民間の非営利団体やボランティア団体を活用していくのが現実的なのではないか。子ども劇場でも、学校への提案やこども会・自治会に文化芸術を届ける活動を行っているため、実際にそういった活動をしている団体を活用するといい。
山下委員	花畑広場でプレイベント等をもっと活発にしてほしい。
喜久山委員	音楽関係者から聞いた話だが、熊本駅前やびぶれす広場で演奏することが多く、花畑広場は暑くて健康的に懸念があるとおっしゃっていた。場に適したイベントを行うことや、場を充実させること(屋根をつけて暑さ対策をする等)も大事だという話をした。
山下委員	ナイトタイムエコノミー(＝夜間におこなわれる経済活動)をしていくべき時代だと思う。夕暮れ時から、夕涼みがてらコミュニティーを求めてまちに出てアートに触れるようなライフスタイルになっていくといい。

発言者	発言要旨
嘉悦委員	<施策Ⅰ―2―①について> イベントの機会を与えられることはあるが、音響がない場合が多い。 それが原因で(特にアマチュアにとっては)「こんなものか」と思われるのが痛手。 <施策Ⅰ―2―④について> 「文化芸術活動者の公演に対する助成及び広報等の支援」はしているのか。
事務局	伝統芸能の団体へは助成している。また、民間団体が実施しているものを紹介している。 助成金を出すというのはなかなか難しい。
嘉悦委員	<施策Ⅰ―3―②について> 熊本市のLINEとてもいい。登録者数を増やすことでダイレクトに届きやすくなると思う。経験上、テレビやチラシ等よりも、Instagramやチケットツクのインフルエンサーに広報してもらう方が影響大きく、若い世代にも届きやすいと思う。 <施策Ⅲ―1―②について> 学校にクラシック演奏に来た経験あるがリアルじゃない。 学校から出て劇場やライブハウスなどでリアルな現場と音に触れてほしい。 生の演奏を聴いてかっこいいと思うことは、演者の母数を増やすことにもつながると思う。
西島委員	<施策Ⅲ―1―②について> 「伝統芸能講師」等に限定しない方がいいのでは。
喜久山委員	嘉悦委員へ:簡易的・ポータブル可能な音響設備があれば活動に参加したいと思うミュージシャンがいるということか。
嘉悦委員	いる。ストリートアートプレックスくらいの設備があると活動しやすい。
喜久山委員	施設で行われるものと、街にふらっと行ったらやってみみたいなものの両方の仕掛けがあるといい。
小堀委員	ストリートアートプレックスは、間近で音楽がきけるため、かえってダイレクトに楽しめるというメリットはある。 ストリートアートプレックスやみずあかりなどは、中心に立つ民間の人物が大変頑張っている印象。もっと行政と連携・協力してほしい。 いろんな届出が必要なので、まとめてワンストップで届出ができるような仕組みができるといい。
事務局	ストリートアートプレックスは、民間・熊本市・商工会議所で実行委員会形式で共同で実施しており、熊本市も負担金を支出する等の支援している。 「人物に着目してはどうか」とのご意見について、熊本市内には、横井小楠・夏目漱石・小泉八雲など10の記念館がある。
喜久山委員	従来とは違う方法をとって関心を引くことが必要かもしれない。たとえば邦楽×現代音楽でコラボしてみるなどどうか。
小堀委員	先日、邦楽×バロッド音楽を聴きに行った。邦楽というと「春の海」のような曲をイメージするが、清原ハルさん等すさまじいのでぜひ聞いてほしい。 個人開催のためリスク負えないから小さい会場での開催だったが、広い会場でも観客はたくさん来たかも知れないと思った。
佐藤委員	人気な授業ランキングで、美術は小学校までは人気だが、中学校から下位になるという統計があった。セグメントを細かく区切り、ターゲットを考えた取組をした方がいい。 思春期くらいを機に、作るから見る・聴くなど受容する側に変容するのではないかと思うので、研究するといいのでは。 アーティストは0から1を生み出す人。生み出された1を10や100にする人も必要。そういったファン・サポーターのことも計画に記載があるといいのでは。
喜久山委員	幼い頃は無邪気に美術をやっていたが、成長するにつれ、やりたいことに技術が追い付かず、自ら手を引いてしまうことが多い気がする。漠然と「美術・こども」でくらないで、細かくターゲットとメニューのマッチングをしたらいい。
浪床委員	市民アンケートで「熊本の文化からイメージするもの」として「歴史」の回答も多いが、伝統文化・文化財ではなく、細川・加藤といった「歴史」を学ぶ・触れる取組があってもいいと思う。

発言者	発言要旨
モーガン委員	具体案が具体的でないものもあるので、もっと具体的な取組を書いた方がピンとくるし、わくわく感が出ると思う。 外国人観光客からしても、観光地で邦楽や書道パフォーマンス、演舞等のアート活動があったら目を引くと思う。
喜久山委員	同じことをしても、公民館ですのと熊本城でできるのではわくわく感が違う。シチュエーションを大切にする・活用するといい。
狩野委員	＜施策Ⅰ―1―③について＞ 「こども連れから高齢者」ではなく「こどもからおとな」がいいのでは。 ＜施策Ⅰ―3―③について＞ 美術にかぎらず音楽などいろんな授業があるといい。
西島委員	障がい児、障がい者との文化を通じた交流も大事なので入れてほしい。
喜久山委員	障がい者にパブリックアートを制作してもらうのはどうか。
佐藤委員	＜推進体制について＞ 「市の文化施設の環境整備」について、市の施設を取材する機会があったが、例えば八雲旧居にはパネルが壁に貼ってある・フィルムが畳の上ののってるだけ、ばあちゃん家にあるような蛍光灯があったり…など、文化財の本当の意味での保管・保全として、できていないと思う。現代に合っていないと思う。整備された空間でアート活動の場とするといいかもしれない。
喜久山委員	いい空間なのに、たった1つのアイテムから興冷めすることもある。ディテールが大事だったりする。
小堀委員	小泉八雲はこれから朝ドラになり影響も大きいだろうから、これを機に整備した方がいい。
モーガン委員	アーティスト活動にはお金がかかるから、民間企業スポンサーとのマッチングを行政がしてくれたら嬉しい。
喜久山委員	これを一齐に全部しようと思うと、全部中途半端になる可能性もある。年度毎で注力する事業を変えるなどの方法を必要があるかもしれない。 この中から具体案を絞り込む必要もあるかもしれない。
西島委員	実施計画を作って、細分化すると具体的になり、市民にとってもわかりやすい。
事務局	実施計画を作成する予定は今のところない。 具体案をたくさん羅列しているが、これからの工程で文章の中に溶け込んでいったりすることもあると思う。
狩野委員	乳幼児に向けての提案をこども劇場で行っている。乳幼児であっても五感に訴えかけれると思っているし、心安らげる空間・作品に出会えるということで親の福祉面にも資すると思う。
小堀委員	熊本市最大の観光資源である熊本城の活用を考えるにあたり、他都市の文化財等のユニークベニューの活用を整理している。熊本城でお金を落としてもらって、文化財の保護やその他の文化的な費用に充てることが必要な時代になっていると思う。 ＜施策Ⅳ―1―④について＞ アーティストインレジデンスの定義は、海外に限らないのでは。
喜久山委員	アーティストインレジデンスで外からの刺激を与えるというのも1つの手かもしれない
モーガン委員	阿蘇でアーティストインレジデンスをやったときに事務局を担当していたが、アーティストとしてもいい刺激だった。その後、アーティストが阿蘇に再来するきっかけにもなっている。
喜久山委員	地元の人が地元の良さを自覚する機会にもなる。
石櫃委員	佐藤委員へ：文化に関する広報コンテンツを作るのは、広報的にはどうか。
佐藤委員	事務局の運用・処理はとても大変だと思う。AIがうまく整理したりできるようになるといいかもしれないが。また、高齢者がついてこれないと困る。

発言者	発言要旨
山下委員	今後はGPS等のIT化・デジタル化は必須なので、取り残される人が出ないようにするためにアートを用いることもできると思った。 他都市のユニークベニユーを取り入れた美術館で、盛り上がった一方、市民からは受入れられなかったという事例もある。 伝統的に続いているものは革新しながら続いている。前衛性を評価する必要がある時代だと思う。
喜久山委員	目新しさは、単純だけど魅力。こちらとしては最先端のつもりだけどいろんなところでやってる、ということたくさんある。他都市の状況も参考にしつつ、戦略を考えるべき。
西島委員	＜策定の背景・社会情勢について＞ 「インバウンド観光客の増加」を追加してはいかがか。 ＜施策Ⅲ―3―②について＞ 高校生のダンスレベルはすごいので、大学に限定しなくてもいいと思う。 ＜施策Ⅲ―3―④について＞ 室内「楽」アカデミーに限定しなくていいと思う。
狩野委員	＜施策Ⅱ―2について＞ 一般市民はシビックプライドの意味がわからないと思うので注釈がほしい。
浪床委員	＜施策Ⅳ―1―②、⑥について＞ 「日本人市民」のワードは違和感がある。
佐藤委員	熊本のまちなかにアートが少ない気がする。パルコ前の玉は、なんだかんだ文化資源になっている。個人的には公園にもオブジェ等があるといいと思う。 アートインレジデンスした際も、作って終わりではなくまちなかに飾るなどしてほしい。
喜久山委員	イベントのように短期的なものと、恒常的に設置されているものの両方が必要。オブジェは、耐久性・安全性・保持管理なども考慮したうえで「あった方がいい」と思わせる質が必要。 熊本の街のパブリックアートは古典的なアカデミックなものが多いので、現代アートがあってもいいかもしれない。
佐藤委員	新潟の大地の芸術祭のオブジェは、市民のボランティアのメンテナンスで成り立っている。
喜久山委員	ボランティアで、そんな仕組みができると素晴らしい。